

1～4年次前期・選択

1単位・15時間

【概要・目的】

「感性と芸術」という科目名は「身体と音楽」と読み替えていただくと、この科目の目指す方向、内容が理解しやすくなると思われます。古代ギリシャ以来、音楽と看護学・医学は意外に深い関係にあり、将来看護職関係の仕事に従事する方々にとって、音楽のことを知っておくことはきっと役に立つと思います。卒業後様々な世代の患者さんと、音楽の話題を通じて心の交流ができるようになることを目指して、特に音楽と看護学に関する様々な話題を提供していきます。

【到達目標】

様々な世代、様々な国々の患者さんと、音楽の話題を通じて心の交流ができるようになること。

【内容・スケジュール】

- 1) 音楽療法の可能性1：音楽運動療法
 - 2) 音楽療法の可能性2：癒しと音楽～大脳辺縁系に与える音楽の作用
 - 3) 音楽療法の可能性3：緩和ケア病棟と音楽
 - 4) 聴覚と音楽：増加している若年世代の難聴・日本人の耳&欧米人の耳
 - 5) 喉頭と音楽：人間の声が出るしくみ・クラシック音楽の声楽曲入門
 - 6) 身体と音楽：様々なリズム感と生活様式との関連
 - 7) 日本人と西洋人の音楽的感性の相違：日本人の好きな音質・音高
 - 8) 明治以降の音楽：各世代の患者さんはどのような音楽を聴いてきたか
-

【評価】

毎回の講義へのミニ・レポート（60%）、出席状況及び参加態度（40%）。ミニ・レポートは講義を通じて得られたこと、講義内容への感想、質問などを記入してください。講義の中で紹介する参考文献はきっと将来の仕事に役立つと思いますので、できるだけ目を通すようにしてください。

【教科書】

適宜資料を配布します。

【推薦参考図書】

- 佐藤正之『音楽療法はどれだけ有効か』化学同人,2017
田村恵子『余命18日をどう生きるか』朝日新聞出版,2010
岩田誠『脳と音楽』メディカルレビュー社,2001
田村和紀夫『徹底図解 クラシック音楽の世界』新星出版社,2012
-

【その他】

E-mail kbrunnenk@gmail.com